

哲學研究

第四十卷 第二冊

第四百六十號

昭和三十四年二月二十日發行

ゲートに於ける人間像

.....フリッツ・リョアヒム・フォン・リンデレン
谷友幸 譯

知ることと認めること.....森口美都男

ラシヨナリスムの學問理念.....三嶋唯義

—デカルトとマルブランシュ—

デンマーク・ソエーヤン・キヤケゴア協會の現況.....大谷長

新着外國雜誌所載論文一覽

京都大學文學部内
京都哲學會

京都哲學會規約

- 一、本會は廣義における哲學の研究とその普及を圖ることを目的とする
- 一、右の目的のために左の事業を行う
 - (一) 毎月一回會誌「哲學研究」を發行する
 - (二) 毎年公開講演會を開く
 - (三) 隨時研究會を開く
- 一、本會の事業を遂行するために委員若干名をおく
委員は京都大學文學部哲學科教官及び委員會において推薦したものに委嘱する
- 一、本會に賛助員若干名をおく
賛助員は會員の中から委員會が推薦する
- 一、本會は會員組織とし會員には資格の制限を設けない
學校・圖書館・其他の團體は團體の名を以て入會することができる
- 一、會員は會費として年一、二二〇圓（會誌十二冊分を含む）を前納する
但し 二回又は三回に分納することもできる
- 一、會員は會誌の配布を受け會誌に豫告する諸種の行事に出席することができる
- 一、本會は事務所を京都大學文學部内におく
- 一、規約の改正は委員會の決定による

京都哲學會役員

委員

本	武	松	蓮	野	西	長	土	田	武	高	園	島	重	柿	白	上	井	石	池	有
吉	藤	尾	實	田	谷	尾	中	美	内	田	原	澤	芳	崎	井	野	島	田	田	賀
良	一	義	重	又	啓	雅	邦	知	義	三	太	俊	祐	二	照					鐵
治	雄	海	康	夫	治	人	夫	郎	範	郎	郎	夫	郎	一	尚	夫	勉	仁	祐	郎

いつたのは單純にこの偽なる見解のことなのではあるまい。ある見解は、それが眞ではなくて偽であるからして捨て難いなどというのではない。私が「眞實を認める」時に私が捨てねばならないのは、いうまでもなく愛着された見解である。我々が何か愛着あるものを捨てることは決斷といわれる。「人間の感情によつて濡れた眼を決してもたない」爲には、決斷が要る。學者らしい學者は異口同音にこのことを強調している。「そんなことは言う迄もない」といつてはならない。それが認めまいとする態度なのだからである。

(未完)

(筆者 大阪市立大學文學部「哲學」助教授)

前 號 目 次

存在論的證明…… チャールズ・ハーツホーン
 ——まだ論破されていない四つの形式—— 野田又夫譯

時と永遠…… 武藤 一雄
 ——聖書的時間論についての一考察——

カントにおける「直観」に 観山雪陽
 ついて……

第九回國際宗教學宗教史會議について…… 有賀 鐵太郎

報 告
 新着外國雜誌所載論文一覽

次 號 論 文 發 告

思惟の根本命題…… マルティン・ハイデッガー
 ——竹市明弘譯——

フエヒネル的法則について…… 神崎 祐一

バークリの夢…… 橋本 峰雄
 ——フエノメナリズムと形而上學——

知ることと認めること

會 告

- 一、本會は會員組織とし會員には資格の制限を設けません、入會希望の方は京都市左京區吉田京都大學文學部内京都哲學會（振替口座京都四〇三九番 京都哲學會）宛に規定の會費（年一、二二〇圓又は半年六一〇圓）をお拂込下さい
- 又會員への會誌送付、バックナンバー購入、及び發賣に關する一切は東京都千代田區代官町二 創文社（振替口座東京九二四七二番創文社）宛に願ひます
- 一、會費切れの場合は封筒に「前金切」の印を捺しますから直ちに御拂込下さい、（一年分又は半年分）會費は原則として本誌十二冊（又は六冊）の送附済を以て前金切れとし、會費の變更其他の事情による過不足は一年（又は半年）毎に精算します
- 一、會員の轉居入退會の事務及び編集事務の一切は京都哲學會宛に御通知下さい
- 一、本誌の編集に關する通信・新刊書・寄贈雜誌等は本會宛にお送り下さい

京 都 哲 學 會

京都市左京區吉田
京都大學文學部内

昭和三十四年二月十五日印刷
昭和三十四年二月二十日發行

編 集 人

京 都 哲 學 會
京 都 大 學 文 學 部 内

編集代表

土 岐 邦 夫

發 行 人

久 保 井 理 津 男
東 京 都 千 代 田 區 代 官 町 二

印 刷 人

堀 内 文 治 郎

印 刷 所

堀 内 印 刷 所
東 京 都 神 田 三 崎 町 二 一 六

發 行 所

株 式 會 社

創 文 社

東 京 都 千 代 田 區 代 官 町 二
振 替 口 座 東 京 九 二 四 七 二 番
電 話 丸 ノ 内 (23) 四 〇 〇 八 番

註 文 規 定

- 一、會員以外の購讀者の御注文及び廣告掲載に關する件は「創文社」へ御申込下さい
- 一、本誌の御注文はすべて代金送料共（一部、定價一
二〇圓、送料・八圓）前金にてお送り下さい

昭和
三十四年
二月二十五日
印刷
（每月二
行）

THE JOURNAL
OF
PHILOSOPHICAL STUDIES
THE TETSUGAKU KENKYU

Vol. XL

February, 1959

No. 2

Das Bild des Menschen bei GoetheFritz-Joachim von Rintelen

To Know and to Acknowledge (I)Mitsuo Moriguchi

L'idée de la science du Rationalisme au 17^e siècle

— *Études historique et critique de la philosophie*

de Descartes et de Malebranche —

..... Tadayoshi Mishima

The Activities of Søren Kierkegaard Society in Denmark

..... Masaru Otani

Published Monthly

By

THE KYOTO PHILOSOPHICAL SOCIETY

(The Kyoto Tetsugaku-Kai)

Kyoto University

Kyoto, Japan

定
價
一
二
〇
圓

IBM 6427